



## 評価結果

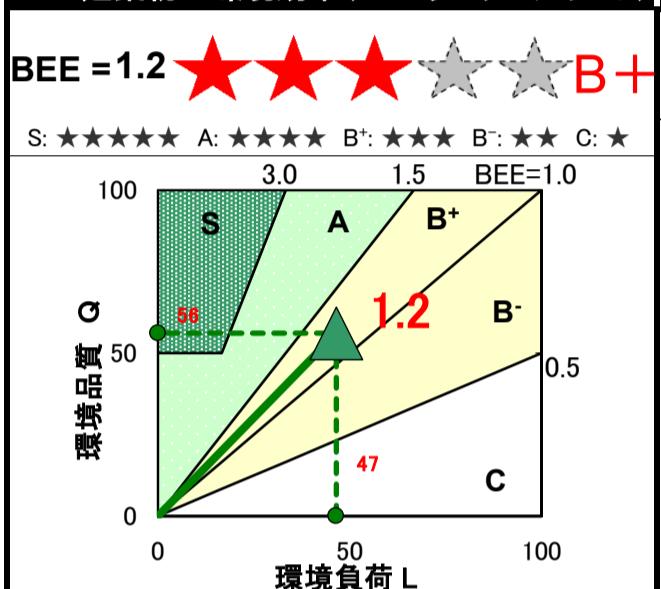
## 1-1 建物概要

建物名称	(仮称)藻岩・啓北商業再編新設校	階数	4
建設地	札幌市南区川沿3条2丁目1番1号	構造	RC造
建物用途	学校	平均居住人員	1,056 人
竣工年	2030年3月 予定	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
敷地面積	51,612 m <sup>2</sup>	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	5,090 m <sup>2</sup>	評価の実施日	
延床面積	14,431 m <sup>2</sup>	作成者	安中 元規
		確認日	
		確認者	

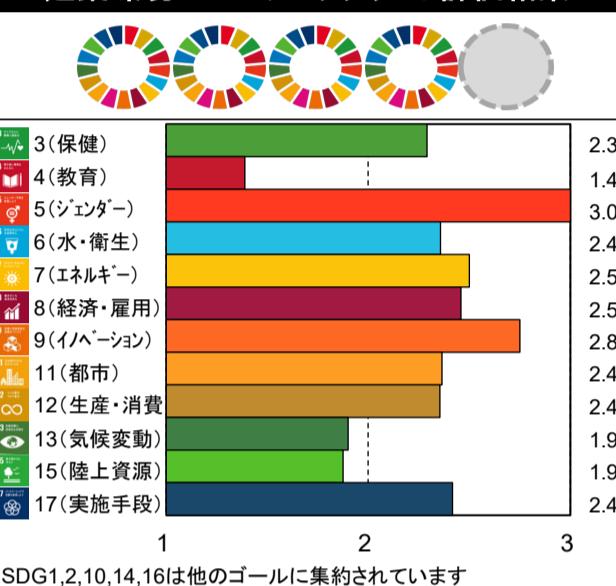
## 1-2 外観



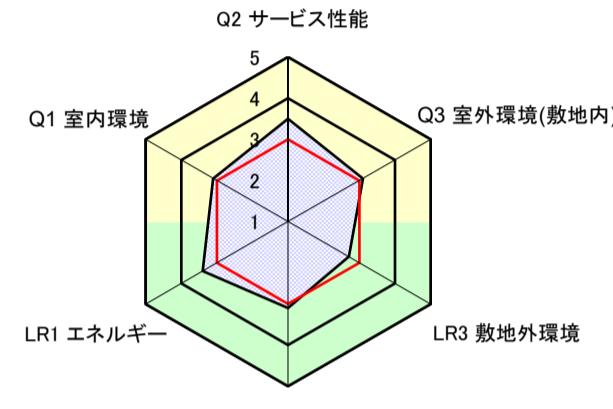
## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)



## 2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果



## 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

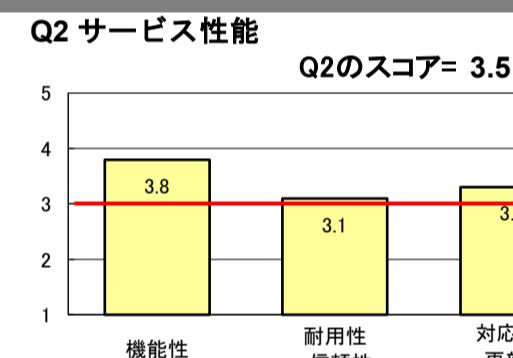
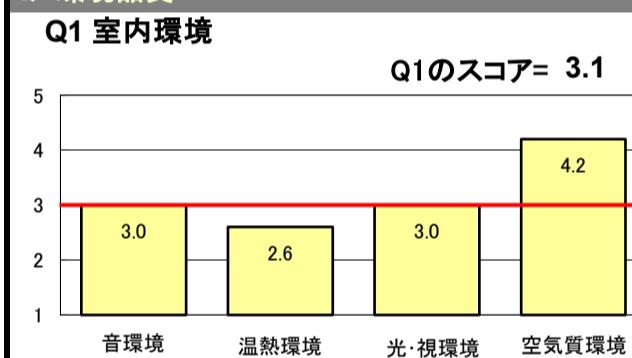


## 2-4 一次エネルギー消費量の評価

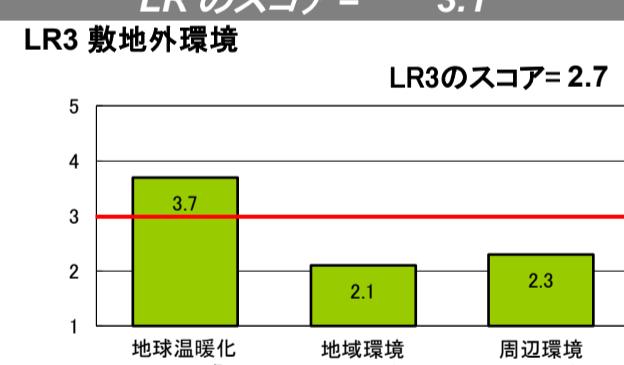
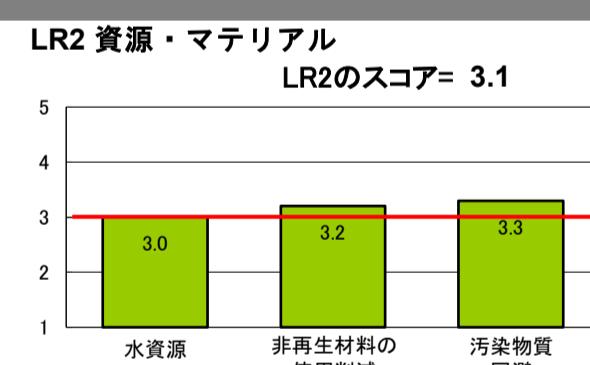
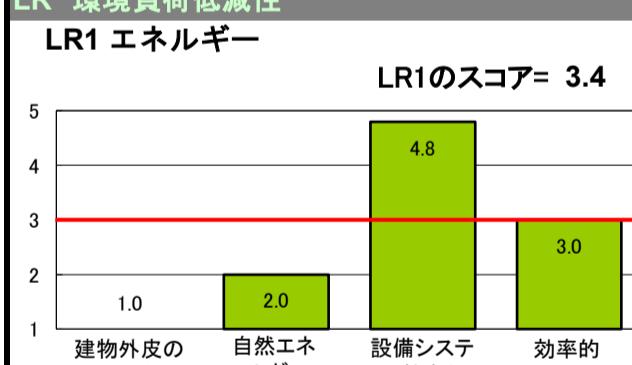
建物全体の[BEI][BEIm] 0.62  
ZEB/ZEH-Mランク 非該当

## 2-4 中項目の評価(バーチャート)

## Q 環境品質



## LR 環境負荷低減性



## 3 設計上の配慮事項

## 総合

## A 省エネルギー

・外断熱工法を採用している。

## B 省資源等

・節水型器具の採用により、水資源の保護を図っている。  
・外断熱工法を採用することで躯体を保護し施設の長寿命化を図ります。

## C 緑化

・札幌市緑の保全と創出に関する条例基準数値を上回る緑化計画を図っている。

## D 雪処理

・冬季の積雪を考慮し、昇降口前を広いピロティとしている。  
・冬季の雪害を考慮し、雪庇防止金物を設置している。  
・グラウンド面に堆雪スペースを確保している。

## 4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証 なし BELS認証 なし LEED認証 なし

上記以外の認証・評価制度の利用 -

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		重点評価項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数					
Q 建築物の環境品質												3.2
Q1 室内環境					0.40		-					3.1
1 音環境				3.0	0.15	-	-					3.0
1.1 室内騒音レベル			-	3.0	0.40	-	-					
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-					
1 開口部遮音性能			アルミ樹脂複合サッシ T-1	3.0	0.30	-	-					
2 界壁遮音性能			TLD-10=Dr39	3.0	0.30	-	-					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			RC150mm	3.0	0.20	-	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20	-	-					
1.3 吸音			-	3.0	0.20	-	-					
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-					2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-					
1 室温			冬季18°C以上、夏季28°C以下の室温を実現するための設備容量を確保	3.0	0.60	-	-					
2 外皮性能		省エネ	外断熱、高断熱窓、アルゴンガス入りペアガラスを採用	3.0	0.40	-	-					
3 ゾーン別制御性			-	-	-	-	-					
2.2 湿度制御			-	1.0	0.20	-	-					
2.3 空調方式			-	3.0	0.30	-	-					
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-					3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-					
1 昼光率			1.5%≤ [昼光率] <2.0%	3.0	0.60	-	-					
2 方位別開口			-	-	-	-	-					
3 昼光利用設備		省エネ	-	3.0	0.40	-	-					
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-					
1 昼光制御		省エネ	-	3.0	1.00	-	-					
3.3 照度			-	3.0	0.15	-	-					
3.4 照明制御			-	3.0	0.25	-	-					
4 空気質環境				4.2	0.25	-	-					4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-					
1 化学汚染物質			ホルムアルデヒド濃度が50 μg/m3以下。	5.0	1.00	-	-					
4.2 換気				3.0	0.30	-	-					

1	換気量		—		3.0	0.33	—	—
2	自然換気性能		—		3.0	0.33	—	—
3	取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.33	—	—

4.3 運用管理	1 CO <sub>2</sub> の監視	-	3.0	0.20	-	-	-	-
	2 喫煙の制御	「健康増進法」の一環として施設内、敷地内全面禁煙を実施	5.0	0.50	-	-	-	-
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	-	3.5
1 機能性			3.8	0.40	-	-	-	3.8
1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	-	-	-	-
1	広さ・収納性	-			-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応	-			-	-	-	-
3	バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。	4.0	1.00	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性			3.5	0.30	-	-	-	-
1	広さ感・景観	-	3.0	0.50	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース	-			-	-	-	-
3	内装計画	-	4.0	0.50	1.0	-	-	-
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上材を使用し、極力段差のない設計をしている	4.0	0.50	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保	清掃に十分な設備を確保している	4.0	0.50	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性			3.1	0.30	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	-	-
2	免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数			3.6	0.30	-	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 30年以上	5.0	0.20	-	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 -	3.0	0.10	-	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源 -	3.0	0.10	-	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 給水管:ステンレス鋼管、汚水管:硬質塩化ビニル管、雑排水管:硬質塩化ビニル管	4.0	0.20	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源 -	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	-	-
1	空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2	給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	-	-
3	電気設備	-	3.0	0.20	-	-	-	-
4	機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	-	-
5	通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	-	3.3

3.1 空間のゆとり				4.2	0.30	-		
1	階高のゆとり	4.0m、3.9m		5.0	0.60	-		
2	空間の形状・自由さ	-		3.0	0.40	-		
3.2 荷重のゆとり		-		3.0	0.30	-		

3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)	—	—	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出	緑化	—	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	—	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	グラウンドを集雪場、校舎1階の地域開放、光庭、夜間照明の設置	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー		—	—	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.00 品確法=—	1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用	省エネ	—	2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.62 —	4.8	0.50	-	-	4.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ	—	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ	—	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			—	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ	—	—	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ	—	—	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		—	—	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		—	3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		—	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		—	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		—	3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減	省資源	—	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	EPS、XPS、再生クラッシャン	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	—	3.0	0.20	-	-	

3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	省資源	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0かつGWP=10未満の発泡剤を用いた断熱材等を使用している	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	省資源	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1	地球温暖化への配慮	省資源	外断熱、高断熱窓、アルゴンガス入りペアガラスを採用	3.7	0.33	-	-	3.7
2	地域環境への配慮			2.1	0.33	-	-	2.1
	2.1 大気汚染防止	省資源	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	1.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制		駐車場30台以上、駐車場出入口2つ	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	塵芥庫整備、グラウンドへの排雪	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			2.3	0.40	-	-	
	1 騒音		-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動		-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		-	1.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			2.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		-	1.0	0.60	-	-	
	2 砂塵の抑制		グラウンドの周りを、樹木とフェンスで囲んでいる	4.0	0.20	-	-	
	3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.20	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

**1 建物概要**

建物名称	(仮称)藻岩・啓北商業再編新設校	BEE	1.2	BEEランク	B+
建物用途	学校				
延床面積	14,431.3 m <sup>2</sup>				

**2 重点項目への取り組み**



**3. 重点項目のCASBEEスコア**

<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.5 最低点 6.6 )				合計	15.7点	／23.5点	
Q1 溫熱環境	スコア	0.8	／1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.8	／4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.3	／2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	0.8	／2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	9.6	／10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	／4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.7 最低点 7.7 )				合計	14.9点	／23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8	／1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.8	／9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.5	／1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.7	／5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	1.7	／4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )				合計	7.6点	／15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9	／4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.5	／2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	／6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3				
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )				合計	3.0点	／3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	／1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	／2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数